

一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟 第11回研修会 「公認心理師のコンピテンシー&実習生の評価」開催

2022年10月9日(日)10時より、第11回研修会「公認心理師のコンピテンシー&実習生の評価」をオンラインにて開催しました。総合司会は元永拓郎先生(本連盟理事、帝京大学)で、150名強が参加し、公認心理師の養成、特にコンピテンシーと実習生の評価について熱心な議論が交わされました。

開会の挨拶

総合司会は、元永拓郎先生(本連盟理事、帝京大学)でした。開会にあたり、鶴光代先生(本連盟会長、東京福祉大学)より、本日の研修会では公認心理師のコンピテンシーと実習の評価についてともに考えたい、との挨拶がありました。



元永拓郎先生

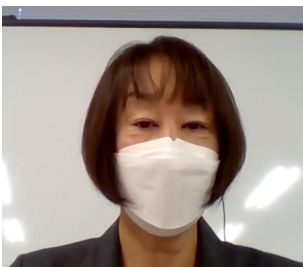


鶴光代先生

また、本日はこのあと、松本すみ子先生(日本ソーシャルワーク教育学校連盟、東京国際大学)においていただき、精神保健福祉士養成における実習評価について貴重なご講演をいただけることについて、謝意が示されました。

講演

日本ソーシャルワーク教育学校連盟の常務理事であり、ソーシャルワーク専門職の養成にこれまで長年の間ご尽力されてきた松本すみ子先生(東京国際大学)より、「実習評価の工夫と課題」と題しての講演がありました。オーガナイザーは、宮崎圭子先生(本連盟実習演習検討委員、跡見学園女子大学)でした。公認心理師養成のヒントになればという先生の思いのもと、自己紹介を交えながら、専門領域であるソーシャルワーカーの養成教育における実習、特に、実習教育の実際や課題、大切にしていることをお話いただきました。



松本すみ子先生



宮崎圭子先生

1. ソーシャルワーカーとは はじめに、実習や実習指導、評価のプレを防ぐことを目的に、社会福祉士実習指導者テキストを作成し質の高い実習教育を全国レベルで担保しているとの説明がありました。ソーシャルワーク専門職の定義であるマイクロ、メゾ及びマクロの3つに基づいて実習を展開する必要があること、講義-演習-実習の学習循環を生じさせること(特に地域について理解することを重視させている)、厚生労働省の通知

(特に教育に含むべき事項)に従って実施していることなどを丁寧にご説明いただきました。なお、社会福祉士は27万人、精神保健福祉士は10万人の取得者がいるとのことでした。

2. 実習評価について 実習評価の目的には、単位の認定と実習の成果を最大化させるという2つがありますが、実習中の中間評価についても、実習効果を高めることに繋がるため重視しているとのことでした。実習評価の基本的な方法は「達成度評価」(教育目標がどの程度達成できたか)であり、評価対象となる実習内容には「教育目標」が設定されています。この教育目標は、①達成目標(実習終了時点でどのような行動ができるようになっているか)と、②行動目標(達成目標を細分化し、観察可能な行動を示したもの)から構成されているとのことでした。評価は、実習先の指導者の評価、実習生の自己評価、担当教員(複数)の評価などを総合的に判断して教員の主観に偏らないように工夫されていました。さらに、評価エラーが生じる可能性を考慮し、評価の材料を全て再確認する、1人だけで評価しないなどの対策がとられているとのことでした。

質疑応答

参加者からはたくさんの質問が寄せられました。これらについては、後日時間をとって丁寧なご回答が寄せられました。ご回答内容につきましては、本連盟のホームページにあります研修会ページに掲載されています。

セッション1: 公認心理師のコンピテンシー調査について

セッション1では、本年6月から7月にかけて公養連で実施された実施されたコンピテンシー調査の結果について、「公認心理師のコンピテンシー調査について」と題し、矢島潤平先生(本連盟理事、別府大学)から報告がありました。オーガナイザーは、川畑直人先生(本連盟理事、京都文教大学)でした。



矢島潤平先生



川畑直人先生

1. 本連盟の事業紹介 本連盟の公認心理師養成に関する事業として、実習演習の手引き作成、心理実習指導マニュアル改訂にむけてのアンケート調査、公認心理師の養成に向けた各分野の実習に関する調査、公認心理師のコンピテンシー調査を行っていることが報告されました。

2. コンピテンシー調査の概要 本調査の背景として、公認心理師制度推進室より、公認心理師法附則第5条への対応としてヒアリングを行いたいとの連絡がありました。そこで、本連盟としては公認心理養成のあり方について会員の意見を踏まえて提案すべきと考え、正会員機関の教員及び個人賛助会員である教員を対象に、コンピテンシー調査を実施致しました。することとなりました。調査の目的は、①公認心理師の基本的

な資質や能力として何を重要と考えているか、②大学課程及び大学院課程の修了時点で望まれる修得水準、の2点を明らかにすることでした。調査方法、調査項目の作成、調査項目及び回答方法の説明の後、結果の概要と考察が報告されました。

「公認心理師の基本的な資質や能力」については、専門職業人としての責任を理解し遂行する力、職業倫理と法的要請を理解し行動選択に生かす力、職務上の判断や行為について説明責任を果たす力、専門知識と技術を継続的に高めていく力、自分の体験を振り返り内省的に熟考する力、他者に共感的な姿勢で接し相互に信頼できる関係を築く力が重要と考えられていました。一方、自分の利益・見栄・評価よりも他者の幸福を優先させる力、ユーモアを共有し他者との関係に生かす力、空想、比喩、象徴的表現を感受する力、科学的研究成果にアクセスし必要な情報を引き出す力、科学的研究の知見を分かりやすく説明する力、職務における経験をもとに科学的研究を行う力は、あまり重要視されていませんでした。

「大学課程及び大学院課程の修了時点で望まれる修得水準」については、大学課程では多くの項目で、実習・演習を通して要支援者及びその関係者に関わる際の具体的なイメージを持てること、望まれる水準とされていました。大学院課程で多く望まれていたのは、現場で要支援者及びその関係者と関わるときに、指導を受けながら実践できるとの水準でした。

3. プロフェッショナルリズム 大学院修了時点においても「プロフェッショナルリズム」の修得については、望まれる修得水準がその具体的なイメージを持てるところまでに留まり、実践に至っていない可能性が示唆されました。心理専門職としての価値観や倫理、責任感、現場に相応しい立ち居振る舞いを、どう教育し、実践させるかが今後の課題として示されました。

セッション2: 心理実習における実習生の評価

セッション2では、「心理実習における実習生の評価」と題して、大学課程の「心理実習」における実習担当教員(実習生を送り出す側)と、その実習施設の実習指導者(実習生を引き受ける側)が組となり、2組から話題提供が行われました。オーガナイザーは、佐藤宏平先生(本連盟実習演習検討委員、山形大学)でした。

話題提供1

野口理英子先生(東京福祉大学)、岩田彩香先生(久喜すずのき病院)から話題提供をしていただきました。



野口理英子先生



岩田彩香先生

野口先生からは、まず、東京福祉大学における「心理実習」の概要が説明されました。次に、実習生の評価について、事前評価(キャリア教育や事前指導を含む)、事中評価及び事後評価の詳細な紹介がありました。キャリア教育では、心理職の説明、受講生自身の内省、雇用条件など、幅広く取り扱われていました。実習評価としては、実習施設の理解、チームアプローチ、他職種連携及び地域連携、職業倫理などを項目として挙げ、それらの項目が事前指導に活かされていることが紹介されました。事中評価としては、学生に実習計画書を作成させ、巡回などで確認を行い、実習指導者と情報共有しながら相互確認が行われていました。事後評価は、実習生、実習指導者及び養成機関の三者から評価が行われていました。また、通信課程の学生への指導の難しさについても共有されました。

岩田先生からは、まず、久喜すずのき病院の概要について説明があり、次いで、実習の受け入れ状況、心理職の業務などが紹介されました。「心理実習」の内容としては、オリエンテーション、施設見学、病棟活動への参加、患者と関わる体験、簡便な心理検査の陪席、振り返りに取り組んでおられました。心理実習の取り組みの難しい点として、心理検査や心理療法への陪席、職員へのコンサルテーション、ケース検討会議への参加があげられました。実習の評価としては、大学と事前確認をしながら、実習中には学んだことを確認する等、実習後には実習生の自己評価や理解をなど総合的に行っていました。

話題提供2

森田美弥子先生(中部大学)、吉田志保先生(暁学園)から話題提供をしていただきました。



森田美弥子先生



吉田志保先生

森田先生からは、はじめに、中部大学の心理学科カリキュラムの全体像について説明がありました。次に、「心理実習」について、見学型(デイケア等での見学)と関与型(利用者に関わりを持つ実習)の2形態で実施していること、教員が手分けして巡回指導等を行っていること、3年次3月からガイダンスが開始されていることなどが紹介されました。実習前後で実習生にインタビュー調査を行った結果についても報告があり、最後に課題として、知識と実践の結びつき、社会的マナー、自身の振り返りなどが挙げられました。

吉田先生からは、まず、児童養護施設の心理療法担当職員の要件、業務内容等について説明がありました。「心理実習」の内容としては、施設見学、児童虐待等についての説明、生活担当職員の業務体験、児童と関わる体験などがあり、特に、生活の中で多職種による児童との関わりが重視されているとのことでした。また、個別面接、コンサルテーション、支援会議等の陪席などについても検討したいとのことでした。実習評価には、実習日誌やケースレポート、実習中の子ども達との関わり方が含まれているが、評価の難しさについても述べられました。

セッション3: 心理実践実習における実習生の評価

セッション3では、「心理実践実習における実習生の評価」と題して、大学院課程の「心理実践実習」における実習担当教員(実習生を送り出す側)と、その実習施設の実習指導者(実習生を引き受ける側)が組となり、2組から話題提供が行われました。オーガナイザーは、平間さゆり先生(本連盟実習演習検討委員、川村学園女子大学)でした。



平間さゆり先生

話題提供1

新井雅先生(跡見学園女子大学)、橋立藍子先生(TMG あさか医療センター)から話題提供をしていただきました。



新井雅先生



橋立藍子先生

新井先生からは、跡見学園女子大学の「心理実践実習」は、学外実習と学内実習で構成されており、実習担当教員の指導を受けながら科目に含まれる事項を学ぶことが説明されました。実習評価は、実習生本人の自己評価、実習指導者の評価をもとに、実習担当教員が最終評価(段階評価)を行っていました。

橋立先生からは、TMG あさか医療センターの概要の説明に続き、実習の具体的な内容として、発達検査とカウンセリングの一例が紹介されました。発達検査の実習は、事前学習、陪席、結果の計算、所見の作成、振り返りなど、順序立てて実施されていました。カウンセリングの実習は、陪席して見立てを行い、今後の支援方針などについて丁寧な指導が行われていました。最後に、実習評価について説明がありました。評価は、跡見学園女子大学の評価基準に基づき、実習の様子・態度、実習ノートの記載内容をふまえて行われていました。

最後に、新井先生より、実習評価はまだ手探りであり、具体的基準などは今後の課題であることが述べられました。

話題提供2

上田幸彦先生(本連盟実習演習検討委員、沖縄国際大学)、早田真吾先生(天久台病院)から話題提供をしていただきました。



上田幸彦先生



早田真吾先生

上田先生からは、沖縄国際大学の「心理実践実習」について、保健医療分野と教育分野での学外実習、基本的態度や技能が身につけているかを確認する模擬カウンセリングの実施、学内指導の内容が紹介されました。実習評価では、報告書が指導上重視されているとのことでした。報告書の作成指導(実習内容の記載方法、対象者とのやりとりや考察などの記述)を通して、支援対象者を観察し、アセスメントし、意図を持って関わること、さらには、そのような関わりによる反応や、周囲への影響などの集団力動などについて評価する能力を磨くことを目的としている、とのことでした。

早田先生からは、天久台病院の概要に続けて、公認心理師実習の受け入れ状況について、人数、実習時間、担当教員との連携や意見交換などが説明されました。実習内容には、施設見学、心理面接・心理検査の陪席と検査の実施、心理教育プログラムへの参加、カンファレンスへの参加、家族支援、地域の支援会議等への参加などがありました。いずれも、支援対象者やスタッフとの交流を大切にして取り組んでいるとのことでした。実習評価は、実習生の態度、人間関係、専門的技術能力、記録方法、心理職としての適性などの項目について、段階評価と自由記述の両方で評価されていました。

意見交換・シェアリング(グループワーク)

セッション1から3については、各後半、グループワークとしてディスカッションが行われました。その後、グループで話し合われた内容、話題提供者への質問などを全体でシェアリングしました。なお、グループワークのまとめについては、本連盟ホームページ内の研修会ページに掲載されています。

閉会の挨拶

野島一彦先生(本連盟常務理事、はぐくみ心理相談所)より閉会の挨拶として、研修会への参加と、熱心な議論が交わされたことについての御礼が述べられました。

また、「演習・実習の手引き」2022年度版の公開、次回以降の研修会予定についてのアナウンスがありました。

鶴先生からは、本連盟の次期役員候補選出に関するお願いがありました。最後に元永先生から、今回の研修を明日からの学生及び院生指導に活かして行きたいとの言葉で閉会となりました。

なお、今回の研修は日本公認心理師協会の専門認定のポイントになり、申請方法も事務局より説明がありました。



野島一彦先生

事務連絡

松本先生に対する追加質問へのご回答は、本連盟ホームページ内の研修会ページに掲載されています。



一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟
事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-31-16-508
お問合せは、連盟ホームページ「お問合せ」フォームからお願いします
URL: <https://kouyouren.jp>